

中村設計新聞

第十九号

三月一九日(土)晴れ
今月の土曜研修は塚本茶華道教室にて「いけばな」を体験してきました。

〇はじめに

今月の土曜研修では、ようやく暖かくなりはじめた、この時期に咲く花を見て、より春らしさを感じようと、華道教室を体験してきました。今回お世話になったのは京都市内にある「塚本茶華道教室」でした。築二〇〇年の町家造で、心地よい静寂に包まれており、毎日の忙しさや喧噪を忘れさせてくれるような環境でした。華道を学ぶことで美しい所作や豊かな感受性、伝統文化への知識を身につけることができるといわれています。日々の業務にも共通することですが、今回の体験を通じて一つ一つの作業の意味や見せ方、伝え方、感じ方を普段とは異なる視線で感じることができたと思います。

「いけばな」体験の流れ

- 1 先生より嵯峨御流についての説明
- 2 花器及び花選び
- 3 「いけばな」実践
- 4 先生による手直し
- 5 座談会

レポート

嵯峨御流「いけばな」を

体験して感じたこと

今回は、春の研修に相応しく「いけばな」について、塚本茶華道教室にお



第十九号

三月一九日(土)晴れ
今月の土曜研修は塚本茶華道教室にて「いけばな」を体験してきました。

世話になりました。

最初に先生から教室の流派「嵯峨御流」について説明を受けた後、各自のテーマに基づき、数種の花を手にして、初めての体験に挑戦しました。私のテーマは、「春の花畑」と題して、花畑の広がりや草花の自然体を表現しました。先生からいけ方の手法の助言をいただいたおかげで、出来上がりは、すきつと洗礼されたものとなり、なるほどという作品に仕上がりました。

今回の体験を通して、構成の仕方や色彩感覚を学び、自分のイメージを端的に表現するトレーニングにもなり、日頃の設計作業においても共通するところを感じました。所員とは、「いけばな」の文化、芸術的な教養を深めるいい機会になったと思います。皆さんも気分転換に、自宅で見たい花をいけてみてはどうでしょうか。

レポート 豊田 和弘

〇まとめ



「いけばな」を通してそれぞれ個性がよく表現されていて興味深く思いました。今回の華道体験により普段とは異なる角度で物事を捉える事が出来た、という意見が多く出ていました。

日々の業務で見失いがちなことを改めて気づける良い時間を過ごすことができたと思います。

嵯峨御流とは



平安の初め、嵯峨天皇が大沢池で舟遊びの折に、小島に咲く可憐な菊を手折られ、殿上の花瓶に挿されたところ、その姿が自ずから「天、地、人」の三才の法にかなっており、「後世、花を愛するものはこれを範とすべし」と仰せられたのが始まりとされているそうです。
嵯峨御流のいけばなは、「伝承華」と「心粧華」があります。「伝承華」は生花、盛花、瓶花、荘厳華の四つの様式花から成り、「心粧華」は折り花、才の花、想い花から成る、新しい時代のニーズに相応した未来感覚の花です。今回、私たちは「心粧華」の様式で、それぞれが型に囚われず、思い思いの形で花をいけました。



作 下西伊佐男

「華を活ける風景」

作 豊田和弘

作 土岐基裕

「華道体験 作品発表」

作 岩田信一

作 伊藤由美子

「座談会」

作 鳥田篤志

作 西村亮人

作 渡邊ゆか

作 井澤弘隆

来月の中村設計新聞はお休みします。